

事例1 単元「モチモチの木」

「つながり」を持って読もう！

国語 第3学年

津幡町立太白台小学校

1 事例の概要

本校では、「よりよく学び、心豊かにたくましく」の教育目標のもと、問題解決的な学習を通して、児童の学ぶ力や確かな学力の向上を願い研究を進めてきた。その結果、問題に対し一人一人が考えを持つことができるようになってきた。

しかし、児童同士がかかわり合いながらより高めていくことはまだ十分ではないこと、主体的に学ぼうとする意識が弱く難しい問題に出会うとあきらめてしまったり指示待ちだったりすることという二つの課題が残った。これは、基礎基本の知識・技能の定着やそれを使う力（活用力）が不足しているためと考えた。そこで、研究の重点を「活用力をつけることを意識した授業づくり」と設定し取り組んできた。新しい基礎基本の知識・技能と学び方の二つが身につくと、これらは次の学習で既習の知識となって活かされ、児童は進んで思考し、判断し、表現するだろうと考えた。

4月段階の3年児童は、「書く」ことに抵抗があり、叙述から根拠を見つけ自分の考えを持ったり心情を読み取ったりできる子は少なかった。そこで、以下の取り組みを行うことで意欲的に考え児童同士がかかわり合い高め合う授業を目指した。

- ・考えをもつことができるための単元ごとの学習アイテム（読むときに役立つもの）掲示。
- ・児童が大事なことに着目でき、まとめにつながるような板書の工夫。
- ・学びが分かるようにするための「まとめ」と「ふり返り」時間の確保。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・物語を楽しみながら読み、場面の様子を味わって読もうとする。（関心・意欲・態度）
- ・登場人物の気持ちや情景を、叙述をもとに想像しながら読むことができる。（読むこと）
- ・表現（比喩表現や擬人法など）のよさに気づくことができる。（言語事項）

(2) 指導上の工夫点

豆太の気持ちの変化やじさまの気持ちを行動や会話を比べながら読むことや、話者の思いと登場人物の言動を読み分けることが、物語を読む力につながっていくと考える。

① 問題解決的な学習における工夫

- ・意欲を持って追求したくなるような課題を設定する。
- ・課題で入り途中で深めの発問をして読み深めていく授業パターンを確立する。

② 考えを持たせるための工夫

- ・前時の豆太と比べられるように学習の足跡を掲示する。
- ・情景を想像しやすいように挿絵を提示する。
- ・会話や行動・様子から読み取れるように音読を多く取り入れたり、時には動作化を取り入れたりする。
- ・気持ちの変化や比べていることが分かるような板書の工夫をする。

③ 学習定着のための工夫

- ・まとめとふり返りを書くことで、学習した内容と学び方が自分の力となるようにする。

3 指導の実際

段階	学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	支援〇と評価規準□（方法）
つかむ 考えをもつ 高め合う まとめる	1.学習課題をつかむ。 2.自分の考えを持つ。 3.課題についての考えを出し合い話し合う。 4.まとめとふり返りを書く。	○豆太は、おく病のままか。 ・すごい豆太になった。 <おく病豆太が、勇気のある豆太に変わったのはどうしてか> ○音読し、各自自分の考えをノートに書く。 ○考えを話し合おう。 ・じさまがくまみたいに体を丸めてうなっている、とても苦しそうだから助けたかった。 ・じさまがたたみに転げて歯を食いしばりすごくうなっていたから、とても痛そうで医者様をよぼうと思った。 ・じさまを早く助けたいと思ったから急いで走った。 ・大好きなじさまの死んじまうほうが、夜の道を走るよりももっとこわかったから。 ・じさまがいないと自分は生きられないと思ったから。 ○わかったことを書こう。 ・豆太は、じさまを助けることだけを考えて真夜中の道をひとりで一生懸命走った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">大好きなじさまを助けるために、医者様を呼びに行こうと一人で決め、一人で真夜中に寒くても、痛くても、こわくても半道も走った。豆太は、すごい豆太に変わった。</div>	○前時の学習の足跡を掲示に残しておき、本時へつなげられるようにする。 ○豆太のなきなき走っている挿絵を用意し、豆太やまわりの様子を考えられるようにする。 ○勇気のある豆太に変わったことを押さえ、その理由を問うことで豆太のじさまを大事に思う気持ちを考えさせる。 ○擬人法と挿絵から、じさまの苦しんでいる様子を想像できるようにする。 読 じさまを思う豆太の必死の思いを行動や様子・会話文・情景描写から読み取っている。 （発言・ノート） ●「もっと」に着目させ、一番こわいものをとらえられるようにする。 ○深まりのためのキーワードや学習アイテムを意識させる。

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 問題解決的な学習の仕方が児童に身につき、学習に見通しを持てるようになった。
- ② ノートに学びの足跡を残すことで、ほとんどの児童は、ノートで前時の学習を確かめたり、ふり返ったりするようになり、学びにつながりがでてきた。
- ③ 教師が学びの分かる板書を心がけることで児童が理解しやすくなり、ほぼ全員の児童が板書を見てまとめを書くことができるようになった。
- ④ 書くことにあまり抵抗がなくなり、叙述から根拠を見つけ考えを書こうとするようになった。
- ⑤ 掲示を活かし前時までを思い出して考えたり、説明したりする姿が見られるようになってきた。
- ⑥ 指導にあたって、教師がまとめをすることまで考えて課題を吟味するようになった。

(2) 課題

- ① まとめとふり返りの内容をより実りのあるものにする。
- ② 高め合う場を充実したものにする。
学習に高まりがあれば、児童に分かったという満足感が生まれ、まとめを書きたいという気持ちも生まれることになる。深める発問や活動などの手立てを充実させ、児童同士をどのようにかかわらせていくかなど高め合う場を充実させていく。
- ③ 話す力・聴く力を育成する。
かかわり合いを深めるためには、聴いている人を意識して話したり、話している人を意識して聴いたりして、お互いを意識した話し合いができる力をもっとつけていかなければならない。